

六月一日

院レクチャー、アルヴァ・アールトの建築とフィンランド。次回レクチャーはルイス・カーンのブリティッシュ・アート・ミュージアムとノーマン・フォスターのセンズ・ベリー・アートセンター。2つの現代建築の光を介して現代を考える。午後、六月四日京都造型芸術大での講議準備。

「京都・レクチャー」

- 一、コルビュジェとサントリーニ
- 二、ミースのバルセロナパビリオン
- 三、アルヴァアールトとフィンランド
- 四、ルイスカーン、ノーマンフォスター
- 五、一九九五年の事件と日本の変革史、重源、山岳寺院
阪神淡路大震災とオーム真理教、ドラキュラの家
- 六、治療する建築、近代建築の修理
ツリーハウス、十勝ヘレンケラー記念塔
ひろしまハウスINプノンペン
- 七、開放系技術、開放系デザイン
直角と曲面

岡山国際交流館、リアス・アーク美術館

鳴子早稲田棧敷湯、観音時、北区清掃工場

マツダ横浜、現代つ子ミュージアム

個別解の建築

耳岩の家、岡邸、増井邸、その他住宅

世田谷村の実験

六月四日講議問い合わせは京都造型芸術大学建築・渡辺豊和氏へ。

六月二、三は伊豆松崎町、近藤邸「蔵・ギャラリー」滞在。伊豆森文、民家実測。

問い合わせは、伊豆松崎町役場、町長公室長、森氏。

六月六日は十勝ヘレン・ケラー記念塔現場

問い合わせは北海道点字図書館、後藤氏。

聖徳寺庭園、十勝の庭、星の子愛児園庭、そして世田谷村の庭。

大小とりまぜて計画がそろったので、庭の計画に筋道を与えなければならぬ。社長宅の地下にも庭が現れるのではないか。現実には庭はいまだに建築の外として建設業界では受け取られていないから、どうしても金が投下されるチャンスが小さい。先ず庭から金が注入されるルートを発見し、なおかつ、その先に金が行き止まり、プールされる対象としての「庭」の分野を捻出する必要があるのである。その方法を考察するのが遠周りなようで、かえって近道になるだろう。スタジオ・ヴォイスで連載中のシリーズがどうやら「庭」の感じに一番近いような気がするが、もう少し突き止めてみるか。

京都造型芸術大学 〇一〇二〇・二〇〇・九一四一

伊豆松崎町役場 〇〇五五八・四二二・一一一一

北海道点字図書館 〇〇一五五・二三三・五八八六

<http://www.abk.co.jp/tenji/>